

○Materials for the distribution of lichens in Japan (7) 地衣類分布資料 (7)

○*Parmelia hayachinensis* Kurok. This species is known only from the type locality, Mt. Hayachine in northern Honshu. It is closely related to *P. galbina* (L.) Ach., *P. metarevoluta* Asah., and *P. obsessa* Ach. as discussed by the author (Journ. Jap. Bot. 43: 350-352. 1968). The distribution and probable mode of speciation of these four species were also discussed by the author (ibid.).

In a specimen of *Parmelia* collected on Miyake Island, sphaeroidal cells, characteristics of four species mentioned above, were observed and galbinic acid was demonstrated with the ordinary crystal tests. In addition, typical pustules are present on the upper surface of the lobes of this specimen. Therefore, the specimen can be identified with *P. hayachinensis*.

Specimen examined. En route from Tairo-ike to Usuki, Miyake Island, Izu Islands, S. Kurokawa 73013 (TNS). (Syo KUROKAWA)

Parmelia hayachinensis (ハヤチネウメノキゴケ) は *P. galbina* (チヨロギウメノキゴケ), *P. metarevoluta* (コフキチヨロギウメノキゴケ) およびアメリカ産の *P. obsessa* と近縁であり、これら4種の分布や種分化の様式などについては既に著者が見解を述べている (本誌 43: 350-352, 1968)。

著者がかつて三宅島で採集した1標本は、パスチュールをつけ、ガルビン酸が検出され、チヨロギ細胞が観察されるので、本種と同定される。これは本種の第2の産地である。(黒川 造)

□豊田武司 (編): 小笠原植物図譜 24×12 cm, 396 pp. 1981. アボック社。上装版 7,500円, 並装版 2,900円 豊田氏は東京営林局の職員として小笠原に数年勤務した際、余暇に小笠原植物の写生図を画いていた。林業試験場に移った後も調査で小笠原を訪れる機会にめぐまれ、図を書きつけてきた。本書はそれが基礎となって作られたもので、編者となっているが、内容の大部分は氏によって作られたものである。写真と図を合せて240種の植物が扱われている。図にはもっと花や果実の拡大図や解剖図があるとよかったと思うが、宮内勝氏の美しい写真がその不足を補っている。主に固有種を中心に (固有種, 124, 広分布種 62, 帰化種 49) まとめられているのは、豊田氏の仕事の重点がそこにあったためであるが、小笠原を訪れる一般の人には、海岸林を構成するハスノハギリやモモタマナといった広分布種の方が目につきやすい。これらは本の後半に小さく扱われているにすぎないのは、この本を利用する一般の人には不便であろう。しかし、小笠原の固有種がまとまって図解されたことや、島での呼び名を記録していること